

【大学だより 198 号に掲載していない記事】

叱咤激励の場となった 就職懇談会

学友会主催の就職懇談会が平成 22 年 8 月 28 日(土)に開催され、大学 1 期生の 4 年生と短大生が出席しました。懇談会は、医療機関・企業の第一線で活躍される若手の短期大学卒業生による司会・講師陣、そして学友会役員が助言者となり、来春卒業を目指す学生への叱咤激励の会場となりました。

8 月 23 日の模擬試験直後でもあったことから模擬試験結果を眺めつつ、『これから一番大切なことは、卒業に向けた学修への真剣な粘り強い取り組み』の熱いメッセージに始まり、各施設の概要・業務内容・勤務体制などの職場環境、自己体験を踏まえた就職の意義・試験準備・受験の注意事項など多岐にわたり、特に就職することの厳しさ、社会人となるうえでの心構えを講演されました。

説明会后に開催された「あずまや」での懇親会には多数の学生が参加し、説明会での内容をより詳しく質問し、就職を話題とした先輩と学生の交流の場となりました。本企画ならびに講師などの役を引き受けていただきました学友会の方々に感謝いたします。



山東省医学影像学研究所研修生 / 黄世廷氏が来校

平成 11 年以降、中国山東省の山東医学高等専科学校への『山東島津放射線技術教育講座』において本学教員による講座が開講され、現在も交流が続いております。又、平成 20 年 4 月には、山東医学高等専科学校・山東医学高等専科学校附属病院・山東医学影像学研究所の方々

が来校され、特に山東医学影像学研究所とは、研究面での交流(研究員の受入れによる研修等)を深めていこうとの合意ができました。この度、その一環として、黄世廷氏(医師、専門/核医学画像診断)が平成22年9月29日~12月17日の間、「診療・研究・教育のための医用画像データベースの構築」をテーマに江本豊教授の研修指導の下、研修されました。

京都の大学『学び』フォーラムに多数の高校生が模擬授業を受講

「京都の大学『学び』フォーラム」が平成22年10月2日(日)福知山(会場:成美大学)で第18回卒業生の上村歩さんによる『もしも、放射線がなかったら?』、10月30日(土)京都(会場:大谷大学)で大野教授による『では、身体の中をのぞいてみよう』の演題で模擬授業、超音波診断装置を使って体験学習が行なわれました。福知山会場では25名、京都会場では模擬授業に58名、体験学習に93名の生徒が受講され活況を呈しました。



写真:福知山会場(成美大学)

島津創業記念資料館および島津製作所三条工場の見学報告

平成22年8月30日から10月29日まで8週間の臨床実習期間中の4年生(63名)を対象に、石垣助教引率のもと9月21日(火)午前・島津創業記念資料館と午後・島津製作所三条工場の見学を実施しました。島津創業記念資料館は、本学の創設(島津レントゲン技術講習所)の地でもあります。現在、文化庁から『国の登録有形文化財』、経済産業省から『近代化産業遺産』に指定され一般開放されています。館内は、島津製作所の創業者/初



代島津源蔵及び本学創設者である二代目島津源蔵の“科学技術で国を興す”、“科学技術で社会に貢献する”という社是の紹介に始まり、創業以来 135 年の間に製造された X 線装置、理化学機器などが時代順に展示されています。平成 14 年、民間技術者として初めてノベル化学賞を受賞された田中耕一氏のコーナーも設けられています。学生はこれら展示品に興味深く見学しました。

午後は、島津製作所三条工場の今年 6 月に竣工した新医用機器工場を訪問しました。メディカルセンターでは、3 班に分かれ、一般撮影装置・回診者 X 線 TV 装置・臨床アプリケーション/血管撮影装置・C アームテーブル及び PET/CT 等、最新装置の操作・デジタル画像の特性に関する説明を受けました。また、新工場では、これから勤務する医療施設で自らが使用していく医療機器の製造現場を垣間見る、学内の講義で得られない見聞を広げました。



今回の見学会を通じて参加学生は、創業記念資料館で本学のルーツを、三条工場では、X 線装置の黎明期から最新のデジタル医用画像装置までを見聞し、医用 X 線装置とその技術変遷に関する理解を深める 1 日となりました。

秋季公開講座

平成 22 年 10 月 2 日(土)、秋季公開講座を学友会記念ホールで開催されました。日本分析学会主催 / 京都医療科学大学協賛で演題『生物学分野への X 線応用』 / 題目 放射光 X 線で重金属蓄積植物の謎に迫る (講師 東京電機大学工学部環境化学科 / 保倉明子氏)、海洋生物に特異的に濃集した重元素に対する X 線分析 (徳島大学総合科学部自然システム学科 / 沼子千弥

氏)でもって、「地球生物の仕組みと働きに解明に役立っている“レントゲン”」を判り易く話ししていただきました。



AED、心肺蘇生法講習会

平成 22 年 11 月 16 日、18 日、25 日、30 日の 4 日間、3 年生の診療画像技術学実験の一環として「応急手当の AED-心肺蘇生法について」の講義、実習を園部消防署から講師を招いて開講しました。救急救命師等の医療従事者のみに認められていた AED(除細動装置)の使用が一般人にも認可され(平成 16 年 7 月)6 年経ち、AED - 心肺蘇生法の講習内容がより実践的となり、一連の講習後、さまざまな患者の状況を課題として与えられ、AED - 心肺蘇生法の対応能力の習得が図られました。講義では、「救命の連鎖」の中での AED 使用法、心配蘇生法の位置づけを簡単に説明され、AED 使用法ならびに心配蘇生法の実技が行われました。学生は、生存率 50%の心停止 5 分以内の応急処置を意識しながら、AED から流れる操作手順を注聴し、人工呼吸 - 心臓マッサージの習得を目指して真剣に受講していました。



JR 園部駅西口広場で学生・教職員が清掃活動

平成 22 年 8 月に、JR 園部駅西口利用の本学を含めた 14 団体による、環境維持の活動に向けた『JR 園部駅西口環境 維持協議会』が発足し、それに沿った JR 園部駅西口広場周辺での清掃活動が平成 22 年 11 月 19 日に行われ、軟式野球部員、教職員が参加しました。今後、本学は学生のボランティア活動意識の醸成、又、学校として、地域貢献等の観点から、平成 23 年度より、学

生委員会が中心となり、HR 単位での参加を進めていくこととなっています。

